

# 白根高等学校

## 生徒指導に関する研究指定校における実践

白根高等学校では、県教委から指定を受け、生徒指導研究推進校として「自らの望ましい在り方を主体的に考え、判断し、行動できる生徒指導のあり方」の主題のもと、生徒指導に関する研究に平成 25 年、26 年度の 2 年間取り組んできました。

本校では規範意識を醸成し、道徳性を内面化させる多様な取組を学校生活の様々な場面で行ってきました。



### <学習指導等での取組>



本校では、これまで数年間、生徒の主体的な学びを保障するため、協同的な学習を積極的に取り入れてきました。更に今回の研究指定を機に、自らを振り返り、今後も主体的に学び続けることが出来るよう、学習に関する記録を多くの授業で取るようにしています。その例として、ポートフォリオ評価、自己評価などが挙げられます。この 2 年間各教科で、それぞれ仮説に基づいた実践を行ってきました。

その結果、学びが深まり、このようなスタイルが本校の学びの文化として定着しました。

### <高等学校における道徳教育の推進>

高等学校では LHR や教科指導、特別活動など様々な場面を通じて道徳教育を推進しています。特に、今年度から県教委作成の高等学校道徳資料「自分との出会い」を LHR 等で活用して取り組んでいます。

### <道徳教育の取組>

自分を高めるために週一度「自分振り返りシート」を全校生徒が記入してきました。5 月にはよりよいコミュニケーション講演会（アサーション）を、9 月には、いじめ被害保護者による講演会を開催しました。また、12 月には公開授業研究会を開催し、県教委資料「自分との出会い」を使い、保護者の協力も得て学年統一 LHR「スマホの使用契約書」を実施しました。



### <特別活動や道徳的实践>

平成 23 年度より生徒指導係が呼びかけて「白根高校マナー・アッププロジェクト」としてスタートした、あいさつ運動・声かけ活動も生活委員会や生徒会本部、他各種委員会や全校的な取組として広がりを見せ、県の通学時マナーアップ運動とも連動して定着してきました。

